

授業科目名	生涯学習概論				
担当教員名	青嶋 絢				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	生涯学習の歴史的経緯と教育的意義について学ぶ講義に加え、美術館・博物館・公共文化施設等におけるワークショップ、レクチャー、体験講座などの「学び・体験」の取組みを参与観察し、企画者の取材、内容の分				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アート・コーディネーター、公共文化施設、教育関連施設におけるアートプロジェクト、ワークショップ等の企画運営（第1回～第15回）				

授業概要

現代社会において生涯学習における文化芸術活動は大きな位置を占めており、文化芸術振興と「学びの場」は互いに関連しあう分野である。特に美術館、博物館、公共文化ホールなどの文化施設では、より幅広い層にアプローチする「生涯学習」が求められる時代である。本講義では、生涯学習の歴史的意義を概観し、文化芸術の現場でより実践的な「学び、体験の場」をどのように作り出すか、実践とディスカッションを通じて考察する。急速に変化する21世紀の複雑な社会状況の中で、「継続して学び続けること」の重要性を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践
- DP9. 役割理解・連携行動

具体的内容：

生涯学習の歴史的背景と教育的意義について学ぶ講義に加え、美術館・博物館等の文化施設における生涯学習事例を研究する。
文化芸術の現場で「学び、体験の場」がどのように設計されているか、実践とディスカッションを通じて考察する。

目標：

生涯学習の理念、歴史的背景を理解することで、文化芸術の現場で働く人材として必要な知識を習得することができる。
ワークショップの企画立案をグループワークで行い、実践に必要な知識・能力を習得することができる。
情報収集力・分析力を養うことができる
主体的に計画的に取り組む力を養うことができる
問題解決のための行動力を養うことができる
他者と協力してグループワークを行うことができる。

学外連携学修

有り（連携先：未定）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 実験、実技、実習
- 問答法・コメントを求める
- 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上の出席者を成績評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内小レポート	30%	： 生涯学習に関する授業内容についてよく理解し、自身の意見を文章で述べることでできているかを評価する。
グループ課題に対する取り組みの貢献度	40%	： グループ課題に対する意欲的な参加姿勢を評価する。
試験（期末レポート）	30%	： 授業を通して学んだことを元に、与えられたレポート課題に対して必要な研究・分析を行い、独自の意見を文章で述べているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業ごとに適宜資料配布・文献紹介を行う。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業に積極的に参加し、グループディスカッション、学外実習に参加が可能であること。学外実習の日程に応じて授業計画を一部変更する場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後の時間
場所： 授業のある教室
備考・注意事項： 授業前後、授業中以外の質問は、メールで受け付ける。メールアドレスは授業内で周知する。

授業計画

第1回	イントロダクション：生涯学習と文化芸術 生涯学習の理念を理解し、その中で文化芸術の担う役割について考える。	講義内容の復習：生涯学習の理念と文化芸術の担う役割について理解する	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	-----------------------------------	--------------------------------

第2回	生涯学習の歴史的意義と現代の動向 日本に生涯学習が導入された経緯を学び、現代の生涯学習のあり方を国内外の事例から考える。	講義内容の復習：日本における生涯学習導入の経緯、国内外の生涯学習事例をリサーチする。	4時間
第3回	文化施設における生涯学習：博物館・美術館・公共文化ホールの取り組み 実際に博物館、美術館、公共文化ホールで行われている生涯学習プログラムの事例を研究する。	講義内容の復習：ワークショップ・レクチャー等の文化芸術プログラムの事例リサーチ	4時間
第4回	生涯学習と地域文化振興：コミュニティ・アートとアーティスト・イン・レジデンス 生涯学習における地域文化振興の事例について学ぶ。	文化ツーリズム、コミュニティ・アート、アーティスト・イン・レジデンス等の事例リサーチ	4時間
第5回	ワークショップのケーススタディー①：参与観察 ワークショップのケーススタディーを行い、実際の事例について学ぶ。	事例研究：参与観察のレポートを作成する。	4時間
第6回	ワークショップのケーススタディー②：分析・考察 ワークショップのケーススタディーを行い、与えられた事例を元に分析・考察する。	事例研究：参与観察を元にグループワークで事例の分析考察をい行う。	4時間
第7回	ワークショップのケーススタディー③：グループ発表 これまでのケーススタディーを元に、グループで発表を行う。	グループ発表のまとめ資料を作成する。	4時間
第8回	実践編：模擬ワークショップ ① 参加者として体験する 学芸員・アーティストによるレクチャーおよび模擬ワークショップの実施。中間ループリックの実施、学生ヘフィードバック。	模擬ワークショップを参加者の視点から検討し、レポートにまとめる。	4時間
第9回	実践編：模擬ワークショップ ② 企画のためのアイデア 模擬ワークショップを体験後、ワークショップ企画立案についてディスカッションを行う。	模擬ワークショップを企画書の視点から検討し、レポートにまとめる。	4時間
第10回	ワークショップの企画立案① 具体的内容、対象者の確定 ワークショップのテーマ、対象者をグループワークで議論し、策定する。	グループ・ワークシートの作成：グループで議論したことをまとめる	4時間
第11回	ワークショップの企画立案② 企画の詳細の決定と実施計画 ワークショップの企画概要の策定とコーディネートをグループワークで議論し、実践にあたっての必要な情報の収集、考察を行う。	グループ・ワークシートの作成：グループで議論したことをまとめる	4時間
第12回	ワークショップの企画立案③ 実施に向けた準備作業 ワークショップに必要な事前準備を行う。	グループワークに必要な事前準備を行う。	4時間
第13回	ワークショップの企画立案④：実施 ワークショップを実施する。	講義内容の復習：実施状況をまとめる。	4時間
第14回	ワークショップのフィードバック 実施したワークショップについて考察を行い、課題を抽出する。	講義内容の復習：実践した内容を報告書にまとめる	4時間
第15回	まとめ：生涯学習の多様なアプローチと今後の課題 講義・参与観察・実践を通じ学んだ内容の総括を行い、生涯学習の今後の課題についてまとめる。最終ループリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）。	授業内容を総括し、レポートを作成する	4時間

授業科目名	博物館概論				
担当教員名	奥野雅子				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義が中心だが、随時、発表や議論、実演・実技を取り入れる。毎授業、小レポートを実施する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学芸員として美術館に勤務。（全15回）				

授業概要

“博物館”とは何でしょうか。本科目では博物館学芸員養成課程の導入として、博物館学各論の前提となる、博物館の定義や種類、目的、機能、歴史、関係法規などの基礎的知識を学びます。そして、博物館と社会との関わりや様々な活動実例と課題、学芸員の実務など現状を知り、博物館の過去・現在・未来のあり方や学芸員の使命について考察します。「博物館とは何か」「学芸員の役割とは何か」自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館や学芸員についての基礎的知識の理解

目標：

学芸員の役割・使命について自分の言葉で説明できる

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

適切な資料を取捨選択し、正確な情報を読み取って論理的に考察できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
また、博物館見学レポート及び学期末レポートが提出されなかった場合は、成績評価の対象としません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各回の授業内小レポート	50%	： 授業内容を理解しているかどうかで評価する
博物館見学レポート	10%	： 講義で学んだ基礎知識と見学した博物館の実情とを結びつけて考察できているかどうかで評価する
試験（期末レポート）	40%	： 博物館及び学芸員の役割・使命について理解して自分の言葉で説明できているかどうか、博物館の現状と課題について論理的に考察できているかどうかで評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

適宜、資料やレジュメを配布する。ファイルに綴じて毎回持参すること。

日頃より、博物館に関する積極的な情報収集と見学に努めること。見学会の日程に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。（詳細は授業内で連絡。観覧料・交通費は各自負担）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	はじめに：博物館学と博物館学芸員養成課程 博物館学と学芸員資格について概要を学ぶ	「博物館法」の精読。博物館の自主的な見学。 4時間
第2回	博物館の定義と種類 博物館の種類や区分、他機関との違いを理解する	授業内で配布した資料を精読し、博物館の定義と種類について理解を深める。博物館の自主的な見学。 4時間
第3回	博物館の歴史 国内外の博物館の歴史について学ぶ	授業内で配布した資料を精読し、博物館の歴史について理解を深める。博物館の自主的な見学。 4時間
第4回	博物館の目的と機能（1）収集・保存 博物館資料の収集・保存について基本的な考え方を理解する	授業内で配布した資料を精読し、博物館の収集・保存について理解を深める。博物館の自主的な見学。 4時間
第5回	博物館の目的と機能（2）調査・研究 博物館における調査研究活動の意義と手法を理解する	授業内で配布した資料を精読し、博物館の調査・研究について理解を深める。博物館の自主的な見学。 4時間

第6回	博物館の目的と機能（3）展示 展示の意義や形態、種別、準備工程を理解する	授業内で配布した資料を精読し、博物館の展示について理解を深める。博物館の自主的な見学。	4時間
第7回	博物館の目的と機能（4）教育普及 博物館における教育普及活動の意義と理念を理解する	授業内で配布した資料を精読し、博物館の教育普及について理解を深める。博物館の自主的な見学。	4時間
第8回	博物館と学芸員（1）学芸員の定義と役割 学芸員の役割について考える	授業内で配布した資料を精読し、学芸員の定義・役割について理解を深める。博物館の自主的な見学。	4時間
第9回	博物館と学芸員（2）学芸員の使命と実務 博物館と学芸員が果たすべき使命とは何か考える。また、学芸員を取り巻く現状について知る。	授業内で配布した資料を精読し、学芸員の使命・実務について理解を深める。博物館の自主的な見学。	4時間
第10回	博物館と社会（1）博物館ではたらく人々、かかわる人々 博物館運営には様々な人々関わっていることを知り、博物館と社会のつながりについて考える	授業内で配布した資料を精読し、博物館にかかわる様々な職業や立場の人々について理解を深める。博物館の自主的な見学。	4時間
第11回	博物館と社会（2）地域との連携 博物館と地域との関わりについて考える	授業内で配布した資料を精読し、博物館の地域連携について理解を深める。博物館の自主的な見学。	4時間
第12回	博物館と社会（3）関係法規 学芸員に必要な法律知識について知る	授業内で配布した資料を精読し、博物館に関する法律について理解を深める。博物館の自主的な見学。	4時間
第13回	博物館見学（1）設備・周辺環境 博物館を実際に見学し、建築や付帯設備、周辺環境について考える	博物館の設備・周辺環境について実地見学を踏まえ、レポートを作成する。	4時間
第14回	博物館見学（2）事業・活動・サービス 博物館を実際に見学し、博物館の多様な事業・活動・サービスについて考える	博物館の事業・活動について実地見学を踏まえ、レポートを作成する。	4時間
第15回	全体のまとめ：博物館の現状と課題 博物館の管理・運営の現状を知り、博物館の未来について考える	講義の内容を配布資料などで振り返り、博物館の現状と課題について総合的に考える。	4時間

授業科目名	博物館経営論			
担当教員名	嶋本尚志			
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	講義を中心に授業を進めます。毎回の講義後にコメントシートを書いてもらいます。			
実務経験のある教員による授業科目	該当する			
実務経験の概要	寺院での学芸員業務を経験。展覧会の企画・実行や事務を担当。			

授業概要

博物館が現在直面している課題や社会の中で果たすべき役割について考えていく。はじめに博物館の歴史を概観し、それぞれの時代どのような役割を果たしてきたかをみていきたい。その際には日本だけでなく、欧米やアジアの博物館史をあわせてみることで、各地域での特徴を比較する。次に、博物館経営（運営）に関する、制度・財政・広報・建築・組織といった様々な観点から、博物館をとりまく現状や課題をみていきたい。特に現在は地域との連携が重要であり、地域にとって博物館はどのような存在なのかを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館や学芸員に関する知識。

目標：

博物館・学芸員の基本的な知識や課題を理解する。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

現状から問題点をみつけ、対応を考えられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回のコメント

20%

： 毎回の講義内容に即し、自身の意見が述べられているかという点で評価します。

試験（期末レポート）

80%

： 博物館・学芸員の基本的な知識や課題についての理解度を中間のレポートおよび期末の試験により評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献：授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。自主的な博物館見学などの「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業を行う教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	博物館と現代社会 博物館の基本機能や現在の状況などについて。	博物館の基本的知識を復習 4時間
第2回	社会的役割からみる博物館史1 外国篇 社会における役割からみたヨーロッパを中心とした博物館史(大英博物館・ルーブル美術館・スミソニアン博物館・故宮博物院などについて)	世界史の復習 4時間
第3回	社会的役割からみる博物館史2 日本篇1(古代から近世) 社会における役割からみた古代から近世の日本の博物館的活動について	古代から近世の日本史の復習 4時間
第4回	社会的役割からみる博物館史3 日本篇2(近代) 社会における役割からみた近代日本の博物館史について	近代の日本史の復習 4時間
第5回	博物館のマネジメント 博物館の運営やマーケティング、自己評価などの活動について	博物館の運営についての復習 4時間
第6回	組織としての博物館 学芸員をはじめとする博物館の組織について	博物館の組織についての復習 4時間
第7回	ミュージアムネットワーク 博物館と行政や他の機関とのネットワークについて	博物館のネットワークについての復習 4時間

第8回	ミュージアムショップ 博物館の予算、博物館におけるミュージアムショップの役割について 中間ループリックの実施、学生へフィードバック	博物館の予算とショップについての復習	4時間
第9回	建物としての博物館 博物館の施設・立地・建築物としての特徴などについて	博物館建築の特徴を復習	4時間
第10回	文化財行政と博物館に関する制度 国や自治体の文化財に関する諸制度や法律について	文化財の種類や区分の復習	4時間
第11回	博物館の広報活動 特別展の時や日常の広報活動について	博物館の広報活動について（特別展時と平常時）の復習	4時間
第12回	博物館の危機管理 災害や博物館に関する事件を通じてみた危機管理について	博物館の危機管理についての復習	4時間
第13回	地域社会と博物館 1 近代京都の博覧会 明治期を中心に行われた京都博覧会および地域博覧会の歴史	地域博覧会に関する復習	4時間
第14回	地域社会と博物館 2 地域に根ざす博物館活動 地域社会との連携や地域にねざす博物館活動の事例紹介	地域の博物館活動に関する復習	4時間
第15回	エコミュージアムの考え方 エコミュージアムの概念や日本や海外での事例紹介	地域の特性と博物館について調べる	4時間

授業科目名	博物館資料論				
担当教員名	安見一葉				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義を中心に進めます。授業中にグループワークや小レポートを書いてもらう場合があります。授業理解のためパワーポイント・プリント等を使用します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	関西の博物館相当施設にて、資料を活かした教育普及を担当してきました。				

授業概要

博物館の資料について様々な角度から理解を深め、博物館資料に関わる知識を得る。具体的には、資料の収集・整理・保管などに関する理論と方法を学び、あわせて博物館の調査研究活動に関する理解を得る。どのようなものが博物館資料として収集されるのか、まずはその母体ともいえる文化財の概念について考え、続いて博物館における収集・整理・保存の過程について概観する。また、博物館資料を社会教育においてどのように活用できるかを考え、博物館資料の博物館活動における位置づけを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館資料や文化財に関する知識

目標：

博物館資料や文化財についての基礎的な知識を得、博物館資料とは何かを理解することができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

博物館資料をどのように活用するかを考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	10%	： 知識取得に対する意欲や積極性を評価する。ルーブリックに基づき評価し点数化する。
授業内の課題	40%	： 授業内容ごとに設定する課題に対する取り組み方と成果物を評価する。
定期試験	50%	： 博物館資料に関する知識の修得や理解度について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均4時間の授業外学修が求められます。その回の授業内容を復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。またグループワークでは、積極的に自身の意見を話すように心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後の時間
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後の時間に質問に答えます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「博物館資料」とは何か 博物館の中の「博物館資料」とは何かを博物館の5つの機能から学ぶ。	4時間
第2回	博物館の概要と文化財 博物館資料の概要について学び、文化財の種類についてまとめる。	4時間
第3回	博物館資料収集の理念 博物館資料の収集の理念について学ぶ。	4時間
第4回	博物館資料の分類・整理 人文系と自然系の分類と整理について学ぶ。	4時間
第5回	博物館資料の調査・研究① 人文系の調査・研究について学ぶ。	4時間

第6回	博物館資料の調査・研究② 自然系の調査・研究について学ぶ。	博物館の理念や調査方法をまとめ、発表できるように文章にする。	4時間
第7回	博物館資料の取り扱い 博物館における資料の取り扱いの意義について学び、使用する資料や心構えなどを学ぶ。	資料の取り扱いの際に使用する道具や、心構えについて基本を復習する。	4時間
第8回	博物館資料の保存・修復 博物館における資料保存・修復する意義について 基本を学ぶ。中間ループリックの実施、学生へフィードバック。	資料保存・修復する意義について復習する。	4時間
第9回	博物館資料の活用 資料の活用方法を3つに分け、それぞれの特徴を学ぶ。	各活用方法について復習し、資料活用の実態を調査する。	4時間
第10回	館種別調査の方法 それぞれの施設の特徴や特性を学び、12回・13回の博物館見学にむけて準備を行う。	施設の特徴をまとめ、次回の見学に生かせるよう復習する。	4時間
第11回	博物館見学① 博物館の見学を行い、資料がどのように活用されているのかを学ぶ。	レポートの作成・博物館の意欲的な見学を行う。	4時間
第12回	博物館見学② 博物館の見学を行い資料の役割をさまざまな側面から知る。	レポートの作成・博物館の意欲的な見学を行う。	4時間
第13回	博物館資料と活用法① 博物館見学から資料がどのように活用されているのか。今後どのように活用していけばいいか具体的な提案を考え、各自まとめ発表を行う。	博物館見学レポートを参考に、各自、博物館資料を活用した取り組みについて発表を準備を行う。	4時間
第14回	博物館資料と活用法② 博物館見学から資料をどのように活用していけばいいか具体的な提案を考え、各自まとめ発表を行う。	博物館での調査研究の成果の還元について学んだことをまとめる。	4時間
第15回	「博物館資料」の可能性 博物館で行われている様々な取り組みを紹介し、これまでの内容を復習する。最終ループリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	授業内容を総括し、博物館資料の可能性と展望についてまとめる	4時間

授業科目名	博物館資料保存論				
担当教員名	岩田真由子				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義を中心とする科目である。授業の理解を深めるために、プリント、パワーポイント、映像を適宜使用する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

博物館では、博物館で収集した資料を良好な状態で保存するために様々な努力が行われている。本科目では、これらの博物館資料を保存するための科学的方法に関する知識の習得を図る。資料の材質と劣化要因を知り、それらの資料に適切な保存環境や環境づくりについて学ぶ。あわせて、災害などに対する危機管理や、資料の活用と保存修復についても学ぶ。また、博物館資料を含む文化財を取り巻く国内外の様々な問題を取り上げ、文化財を保存する難しさについても言及する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館資料の保存に関する基礎的知識

目標：

博物館資料のための適切な保存環境づくりを考えることができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

資料保存のためにどのような解決すべき課題があるかを考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験

評価の基準

：博物館資料の保存に関する知識の修得や理解度について評価する。
70%

受講態度

：知識取得に対する意欲や積極性を評価する。ルーブリックに基き評価し点数化する。
30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

4年生の「博物館実習」の土台となる授業であり、基本的な知識を十分に獲得しておいてほしい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業の前後の時間に質問に対応。

授業計画

第1回	なぜ博物館資料を保存するのか—目的と意義— 博物館資料を保存する重要性について考える。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	授業外学修課題にかかる目安の時間
第2回	資料の伝統的保存方法 正倉院宝物がどのように保存されてきたのかについて学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第3回	資料保存の環境と条件（1）温度と湿度 資料の劣化を防止するために博物館が行っている温湿度管理について学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第4回	資料保存の環境と条件（2）照明と光 資料の劣化を防止するために博物館が行っている照明の工夫について学ぶ。また、照明の光の知識についても学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第5回	資料保存の環境と条件（3）生物被害とIPM 資料の劣化・破損を防止するために博物館が行っている虫害対策について、IPM（総合的有害生物管理）を中心に学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第6回	資料保存の環境と条件（4）空気汚染 文化財に対する空気汚染の影響を概観し、資料の劣化を防止するために博物館が行っている空調管理について学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第7回	資料保存の環境と条件（5）災害①被災資料の救出と修復	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間

	自然災害の際にどのように資料を救出しその保全を図るのかについて学ぶ。		
第8回	資料保存の環境と条件（6）災害②資料の被災防止と対策、保存活動 資料を災害から守るため、日頃からどのような対策を講じるべきなのか、実例から学ぶ。 中間ループリックの実施、学生ヘフィードバック。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第9回	資料の保存処理 文化財の劣化・破損を防ぐため、主に埋蔵文化財に施される保存処理について学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第10回	資料の保存修復 資料の修復について、原則と課題について学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第11回	博物館資料保存の課題（1）文化財の保存について 文化財の保存に関する課題について、各地の実例を取り上げ考える。	授業で取り上げた内容に関する新聞記事を探し目を通す	4時間
第12回	博物館資料保存の課題（2）文化財返還問題 文化財を取り巻く問題について、国際的視点から考える。	授業で取り上げた内容に関連する新聞記事を探し目を通す	4時間
第13回	博物館資料の輸送・梱包 資料の破損要因になりかねない輸送の注意点や、梱包方法について学ぶ。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第14回	アーカイブ アーカイブについて確認し、日本におけるアーカイブの歴史を概観する。	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間
第15回	デジタルアーカイブ 文化財のデジタル情報での記録・保存について学ぶ。 最終ループリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	授業内容のノート・配布プリントを読み直す	4時間

授業科目名	博物館展示論				
担当教員名	中谷至宏				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	スライドプロジェクションを通して、歴史と理論を口述するとともに、それぞれのテーマに沿った実習を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	美術館学芸員として31年間の勤務経験を持ち、特に「展示」に関する思考と実践を重ねてきた。				

授業概要

美術館における展示は、美術館の成立期から今日まで、美術自体の歴史、あるいは美術および美術館の社会における位置付けの変化のなかで、歴史的展開を示してきた。その歴史的変遷と意味を理解した上で、今日求められる展示の在り方を考察する。美術館における展示論は、展示物をより良く見せるための手法ではなく、展示者の意図を提示する一つの表現でもある。本講義では表現としての展示を如何に為し得るかを、理論学習と実践を通して考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力

具体的内容：

作品展示に関する歴史性と文化の多様性による相違を理解し、個々の展示行為が持つ意味を的確に理解する能力を身に着ける。

展示における意味の生成が、色彩、配置、照明等様々な要素によって総合的に成り立っていることを理解する。

目標：

作品展示が美術の問題に留まらず、広くプレゼンテーション全般における意味の生成につながることを理解する。

作品展示と、広いプレゼンテーションの実践との共通点を理解した上で、意図を的確に伝達するための具体的手法を習得する。

日常的な行為のなかで、展示による意味の伝達と関連する事柄を自分自身で見出すこと。

展示が自らの表現として伝えるためには、総合的な構想力が必要であることを理解した上で、そのための設計能力を獲得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバック行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

試験（期末レポート）

評価の基準

： 課題の意図の理解度、言語的伝達能力、および総合的な設計能力のレベルに基づく。

80%

授業中課題

： 課題の意図の理解度、発想力の独自性、言語表現能力の水準に基づく。

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業終了後、またはメールでの質問に応じます。アドレスは授業時に提示します。

授業計画

第1回	イントロ 展示とは何か	特に印象に残った展示を思い起こしメモに起こす。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	博物館・美術館における展示を考える前に、広く他者にモノや情報を提示することの意味を考えるきっかけとする。		4時間
第2回	美術館における展示の歴史1 欧米 欧米の美術館の歴史と展示との関係を概観する。	欧米の美術館のウェブページを閲覧し、展示の特性を押さえる。	4時間
第3回	美術館における展示の歴史2 日本 日本における固有の美術館・博物館の成立史を学ぶ。	博物館の美術展示の特色をメモ書きする。	4時間

第4回	美術館の展示空間 1 壁面 美術館における展示を考える際の基本的要素としてまず壁面と展示の関係を考える。	美術館の作品展示における壁面の色彩について考えをまとめる。	4時間
第5回	美術館の展示空間 2 ケース 美術館における展示を考える際の基本的要素としてのケースという仕器と展示との関係を考える。	展示ケース内の展示と壁面展示の相違点を記述してみる。	4時間
第6回	展示構想 1 理論 展示を実践するにあたり、伝えたい=表現したい内容を整理し、そのための手法を導き出す。	絵画展示における配置について順路の観点から考察してみる。	4時間
第7回	展示構想 2 実践 展示の実践に必要な現実的な課題を確認する。	絵画展示に必要な物品をウェブページを参考にして書き出してみる。	4時間
第8回	展示設計 作品配置 1 理論 配置に関する諸相を提示し、方法論を学ぶ。 中間ルーブリックの実施、学生ヘフィードバック。	ウェブページ等で展示実例の写真を見つけ出し、自分自身で再配置してみる。	4時間
第9回	展示設計 作品配置 2 実践 設計の上での要点を整理し、プランを確定する。	実践で取り組んだ自分の配置プランを机上で再検討してみる。	4時間
第10回	展示設計 照明 1 理論 展示照明に関する基本要素を学ぶ。	美術館展示照明の機材の種類をウェブページで閲覧し、比較対照してみる。	4時間
第11回	展示設計 照明 2 実践 実習を含め、照明に関する課題を実感してみる。	街で目にするディスプレイを照明方法に着目して観察し、その特徴をメモ書きする。	4時間
第12回	作品設置 1 理論 作品設置に関する諸要素を総合的に組織する方法を学ぶ。	実際に目にした美術館展示を例にとり、自分なりの改善点を見つけ出す。	4時間
第13回	作品設置 2 実践 作品設置の現場での課題を知り、実践のための能力を養う。	実践を通して自分にとって新たな発見となった点を言葉にしてみる。	4時間
第14回	情報提示 1 理論 言語、映像等展示に関する情報提示の方法と問題点を学ぶ。	情報提示の適切な量について自分の考えをまとめる。	4時間
第15回	情報提示 2 実践 言語での情報提示の実践の中で課題を見出す。 最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	他の学生の実践のなかで、自分にはない特性を見つけ出し反芻する。	2時間

授業科目名	博物館教育論				
担当教員名	松野敬文				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	「講義科目（前半）＋演習科目（後半）」春学期・全15回の授業のうち、前半（予定では1～9回）は講義が中心となります。後半（予定では10～15回）は前半部の講義内容を踏まえた上で、履修者自身が順				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	嘱託学芸員として、2007年から2009年まで、堺市立文化館 アルフォンス・ミュシャ館（現・堺市文化館 堺アルフォンス・ミュシャ館）に勤務しました（全15回）。				

授業概要

（コレクションからエデュケーションへ）
博物館の主要な役割は、資料（コレクション）の収集・保管から利用者に対する専門的な情報提供、すなわち教育活動（ミュージアム・エデュケーション）へと変化しつつあります。
この授業では、博物館における教育活動について、歴史と意義、理論と運用といった観点から、基礎的な知識を講義形式で学びます。その上で、近隣施設における博物館教育の現状を調査し、教育プログラムの改善案等も含めて、「研究発表」形式で報告します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

「世界市民（コスモポリタン）」としての素養

目標：

公衆すなわち市民こそ、博物館とその職員が奉仕すべき最大の対象です。博物館の教育活動について見聞を広めることで、民族や国家の枠組にとらわれない、21世紀の「世界市民」としての指針が得られます。

- 2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

美学・芸術学・博物館学に関する基礎的な専門知識

博物館において教育活動をおこなうために必要となる、美学・芸術学・博物館学に関する基礎的な専門知識を得られます。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

「傾聴力」の向上。他人の研究発表を聞き、その要点をまとめ、問題点を指摘することができます。

- 2 . DP8. 意思疎通

「伝える力」の向上。自分の研究成果を、課題レポートや研究発表を通して、講師やクラスメートに伝えることができます。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

授業では、短時間で書ける簡単なレポート、「小レポート（ミニッツペーパー）」を提出します。

また、この授業でおこなう「研究発表」では、受講者はただクラスメートの発表を聞いているだけではありません。受講者は、事前に配布される「ミニッツペーパー」に、それぞれの発表に対する感想と評価を書き、授業終了時に提出します。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

受講者の研究発表に対して、授業担当者（松野）が個別にコメントします。また、授業時間に余裕のある場合、会場からの質疑応答を求めます。

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席してください。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

授業内の課題（80%）とレポート課題（20%）によって評価します。
授業内の課題は、10回程度の「小レポート」（合計60点）と、1～2回の「研究発表」（合計20点）に分かれます。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内の課題（その1・小レポート）	：	授業内の課題・その1は、10回程度の「小レポート」（合計60点）です。内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
60%		
授業内の課題（その2・研究発表）	：	授業内の課題・その2は、1～2回の「研究発表」（合計20点）です。内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
20%		
試験（期末レポート）	：	期末レポートの題目は、「自分の研究発表の内容を、論文形式でまとめる」を予定しています。最終的に提出されたレポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。
20%		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

〈美術館・博物館について〉
 倉田公裕、矢島國雄編『新編博物館学』（東京堂出版、1997年）
 並木誠士、吉中充代、米屋優編『現代美術館学』（昭和堂、1998年）
 加藤哲弘ほか編『変貌する美術館 現代美術館学2』（昭和堂、2001年）
 井出洋一郎『新版 美術館学入門』（明星大学出版部、2004年）

ジロディ、ブイレ『美術館とは何か ミュージアム&ミュージオロジー』（松岡智子訳、鹿島出版会、1993年）
 ハイン『博物館で学ぶ』（鷹野光行ほか訳、同成社、2010年）
 ジョージ『THE CURATOR'S HANDBOOK』（河野晴子訳、フィルムアート社、2015年）

『学習：秘められた宝 ユネスコ「21世紀教育国際委員会」報告書』（天城勲監訳、ぎょうせい、1997年）

〈論文・研究について〉
 小林康夫、船曳建夫編『知の技法』（東京大学出版会、1994年）
 サンキュータツオ『ヘンな論文』（角川学芸出版、2015年）
 エコ『論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順』（谷口勇訳、而立書房、1991年）

その他の参考文献については、授業内で適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

また、授業内では、博物館見学の機会を設けません。博物館見学は、自主的におこなってください。

期末レポートは、「論文形式」で執筆します。論文の書き方については、授業内で説明します。ですが、事前に以下のウェブサイトを目を通しておくことを、おすすめします。

佐藤守弘「学術論文を書くために（2012年改訂版）」『洛中蒼猴軒』
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/b-monkey/howto.html>

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 質問は、授業の前後に答えます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<p>はじめに 「博物館教育」とは何か？</p> <p>最初に、春学期・全15回の講義の概要と成績評価の方法について説明します。そののち、学芸員とはどのような仕事であり、どうすればその職に就けるのか、また博物館とはどのような施設で、そこにおける教育とはいったい何か、といった基本的な事柄を確認します。</p>	<p>授業内で紹介した以下のキーワードに基づいて、予習と復習を行います（以下同）。学芸員、ネットTAM、博物館教育</p>	4時間
第2回	<p>「博物館教育」の歴史と意義（1） 教育と博物館法</p> <p>「博物館教育論」という科目名には、当然ながら「博物館」と「教育」というふたつの言葉が含まれています。「博物館」に関しては、日本・フランス・イギリス等の博物館法を、特にその定義をめぐって比較検討することで、現代における博物館の役割を探ります。「教育」に関しては、これまで教育についてどのようなことが語られてきたのかを紹介し、それぞれの立場の特色と限界を探ります。</p>	<p>博物館法、ICOM、ユネスコ編『学習：秘められた宝』</p>	4時間
第3回	<p>「博物館教育」の歴史と意義（2） 博物館職員と「博物館教育」</p> <p>ミュージアム・キュレーター、コンサヴァター、レジストラ、司書、エデュケーター等、博物館で働く人々がそれぞれどのような役割を担っているかを解説します。その上で、この授業の主要なテーマである「ミュージアム・エデュケーター（博物館における教育担当者）」の職分、博物館における教育活動の諸形態を、個別にまた総合的に検討します。</p>	<p>ハイン『博物館で学ぶ』、ジョージ『THE CURATOR'S HANDBOOK』</p>	4時間
第4回	<p>「博物館教育」の歴史と意義（3） 「博物館教育」の調査方法</p> <p>全15回の講義のうち後半部分（8～15回）に該当する、「受講者自身による研究発表」（近隣の諸施設において、どのような博物館教育がおこなわれているかを調査・研究し、講師と他の受講生を前にして発表）について、詳細に説明します。また、この回か次回に、誰がいつ発表するかを「クジ引き」で決定します（厳密な抽選ではなく、優先すべき部活動・就職活動等があれば、日程を調整します）。</p> <p>加えて、研究とは何か、論文とは何かを実例をあげながら解説し、博物館教育の研究を進める上で必要となる参考文献の探し方、インターネット上の学術データベースの利用方法を告知します。</p>	<p>ARTSCAPE、ミュージアムカフェ、CiNii、JSTOR</p>	4時間
第5回	<p>「博物館教育」の歴史と意義（4） 「博物館教育」の歴史</p> <p>欧米における博物館の歴史を古代・中世・ルネサンス期から近代まで順に辿りながら、そこでどのような博物館教育がおこなわれていたのか（あるいはいなかったのか）を概説します。また、日本における博物館教育の歴史についても、簡潔に触れます。</p>	<p>ムーセイオン、ビナコテケー、ステュディオオーロ、ヴンダーカマー、コレクション、イデオロギー、美学、美術史</p>	4時間
第6回	<p>映像でみる「博物館教育」（1） 『パリ、ルーヴル美術館の秘密』（1990年）</p> <p>欧米における博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）について、映像資料（ドキュメンタリー映画等）と文献資料を用いて学びます。この回に取り上げる予定の作品は、以下の通り。</p> <p>ニコラ・フィリベール監督『パリ、ルーヴル美術館の秘密』（1990年、フランス）</p>	<p>授業中に紹介した映像資料において、主に扱われていたミュージアムについて、独自に調査・研究します（ミュージアムやその所在地の歴史、主要な芸術作品の情報、コレクション成立の経緯など）。</p>	4時間
第7回	<p>映像でみる「博物館教育」（2） 『ようこそ、アムステルダム国立美術館へ』（2008年）</p> <p>欧米における博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）について、映像資料（ドキュメンタリー映画等）と文献資料を用いて学びます。この回に取り上げる予定の作品は、以下の通り。</p> <p>ウケ・ホーヘンダイク監督『ようこそ、アムステルダム国立美術館へ』（2008年、オランダ）</p>	<p>授業中に紹介した映像資料において、主に扱われていたミュージアムについて、独自に調査・研究します（ミュージアムやその所在地の歴史、主要な芸術作品の情報、コレクション成立の経緯など）。</p>	4時間
第8回	<p>映像でみる「博物館教育」（3） 『ナショナル・ギャラリー 英国の至宝』（2014年）</p>	<p>授業中に紹介した映像資料において、主に扱われていたミュージアムについて、独自に調査・研究します（ミュージアムやその所在地の歴史、主要な芸術作品の情報、コレクション成立の経緯など）。</p>	4時間

	<p>欧米における博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）について、映像資料（ドキュメンタリー映画等）と文献資料を用いて学びます。この回に取り上げる予定の作品は、以下の通り。</p> <p>フレデリック・ワイズマン監督『ナショナル・ギャラリー 英国の至宝』（2014年、フランス・アメリカ・イギリス合作）</p> <p>〔中間ルーブリックの実施、学生ヘフィードバック〕</p>		
第9回	<p>映像でみる「博物館教育」（4） 『グレート・ミュージアム ハプスブルク家からの招待状』（2016年）</p> <p>欧米における博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）について、映像資料（ドキュメンタリー映画等）と文献資料を用いて学びます。この回に取り上げる予定の作品は、以下の通り。</p> <p>ヨハネス・ホルツハウゼン監督『グレート・ミュージアム ハプスブルク家からの招待状』（2016年、オーストリア。題名の「グレート・ミュージアム」とはウィーン美術史美術館のこと）</p>	<p>授業中に紹介した映像資料において、主に扱われていたミュージアムについて、独自に調査・研究します（ミュージアムやその所在地の歴史、主要な芸術作品の情報、コレクション成立の経緯など）。</p>	4時間
第10回	<p>「博物館教育」の実際（1）</p> <p>近隣（でなくても構いませんが、便宜上このように記します）の諸施設（美術館、博物館、文学館、動物園、水族館等、広義に「ミュージアム」と呼ばれる施設）においてどのような教育活動がおこなわれているのか（あるいはおこなわれていないのか）を、受講者である学生自身が調査・研究し、いわゆる「学会発表」形式で報告します。講師から発表者への簡単な質問、会場からの質疑応答を含みます。</p>	<p>自分の発表を準備します（発表内容の調査、発表原稿の執筆、レジュメの印刷、知人を前にしての予行練習など）。発表を終えた場合、期末レポートを準備してください。</p>	4時間
第11回	<p>「博物館教育」の実際（2）</p> <p>前回と同様に、受講者による「研究発表」をおこないます。</p>	<p>自分の発表を準備します（発表内容の調査、発表原稿の執筆、レジュメの印刷、知人を前にしての予行練習など）。発表を終えた場合、期末レポートを準備してください。</p>	4時間
第12回	<p>「博物館教育」の実際（3）</p> <p>前回と同様に、受講者による「研究発表」をおこないます。</p>	<p>自分の発表を準備します（発表内容の調査、発表原稿の執筆、レジュメの印刷、知人を前にしての予行練習など）。発表を終えた場合、期末レポートを準備してください。</p>	4時間
第13回	<p>「博物館教育」の実際（4）</p> <p>前回と同様に、受講者による「研究発表」をおこないます。</p>	<p>自分の発表を準備します（発表内容の調査、発表原稿の執筆、レジュメの印刷、知人を前にしての予行練習など）。発表を終えた場合、期末レポートを準備してください。</p>	4時間
第14回	<p>「博物館教育」の実際（5）</p> <p>前回と同様に、受講者による「研究発表」をおこないます。</p>	<p>自分の発表を準備します（発表内容の調査、発表原稿の執筆、レジュメの印刷、知人を前にしての予行練習など）。発表を終えた場合、期末レポートを準備してください。</p>	4時間
第15回	<p>おわりに 「博物館教育」の展望（最終回）</p> <p>「受講者自身による研究発表」の予備日です。体調不良等、やむをえない理由で自分の発表日に欠席した受講者は、この日に振り替え発表をおこないます。振り替え発表の終了後、これまでの授業内容と、学生による研究発表の内容を踏まえた上で、今後の博物館教育にどのような展望が見込めるか（あるいは見込めないか）を検討します。</p> <p>〔最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）〕</p>	<p>期末レポートを準備します。</p>	4時間

授業科目名	博物館情報・メディア論				
担当教員名	嶋本尚志				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義を中心に進めますが、授業時間内に小レポートなどを書いてもらうことがあります。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	寺院での学芸員業務を経験。展覧会の企画・実施や事務などを担当。				

授業概要

博物館は多くの情報を持っており、その情報をどのように活用していくかが重要な課題である。また、最近の展示や情報活動では映像メディア・マルチメディアといった多くのメディアを活用している。博物館が社会に向けて情報を的確に発信するためには、それらのメディアに関する知識も必要であるといえる。本講義では、展示活動などの博物館に関する情報活動やメディアのあり方、さらには一般的な情報リテラシーといったことなどについて、その特徴や問題点などを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館・学芸員に関する知識を身につける。

目標：

情報リテラシーをみにつけ、正しく情報の発信や分析が行えるようになる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

情報社会の中で、批判的に物事を考えられるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験

：博物館学芸員に必要な情報リテラシーが身についたどうか、正しく情報発信ができるかどうか、自分の意見が記述できているかを評価します。

80%

コメントシート・小レポート

：毎回の講義内容のポイントを理解できているかを評価します。

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献：授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業を行う教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えます。

授業計画

回	授業内容	復習内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	博物館と情報社会 社会との関わりの中で、博物館の情報活動や情報について	博物館の情報活動や情報についての復習	4時間
第2回	博物館の教育と視聴覚教育 視聴覚メディアや博物館教育との関わりについて	博物館における視聴覚メディア、教育についての復習	4時間
第3回	メディア発達の歴史 文字・写真・映像などのメディアの発達の展開	メディア発達の歴史についての復習	4時間
第4回	人間の認識と記憶 認識と記憶のプロセスや特徴について	人間の認識と記憶についての復習	4時間
第5回	教育メディアとしての情報機器 博物館・学校教育の場での情報機器の役割	教育メディアとしての情報機器についての復習	4時間
第6回	ネットワーク社会の考え方 ネットワークを中心とする社会の特徴について	ネットワーク社会についての復習	4時間
第7回	メディア・リテラシー 1 情報リテラシーの基本 情報の受け取り方や情報リテラシーの考え方について	情報リテラシーの基本についての復習	4時間
第8回	メディア・リテラシー 2 コンピュータとインターネット	コンピュータとインターネットについての復習	4時間

	インターネットの仕組みや特徴、知的財産の保護について 中間ルーブリックの実施、学生へフィードバック		
第9回	メディア教育の課題 諸外国のメディア教育の事例紹介、メディアリテラシーの実践	メディア教育についての復習	4時間
第10回	博物館の情報管理 博物館の情報発信のあり方や課題	博物館の情報管理についての復習	4時間
第11回	情報の伝達と視覚化 ピクトグラムなどの情報の視覚化について	情報の視覚化についての復習	4時間
第12回	情報発信としての博物館展示1 博物館展示の考え方 博物館の展示の考え方や展示の種類・特徴について	博物館展示についての復習	4時間
第13回	情報発信としての博物館展示2 情報提供法としての展示 博物館展示の構成や利用者への情報提供について	博物館の情報発信についての復習	4時間
第14回	博物館とメディア 博物館で利用されているメディアの事例や利用者の反応、博物館でのメディア利用の課題について	博物館で利用されるメディアに関する復習	4時間
第15回	情報発信の課題 博物館情報の社会における役割、今後の課題について	情報発信の課題についての復習	4時間

授業科目名	博物館実習				
担当教員名	岩田真由子				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	3
授業形態	実習科目である。資料の取り扱いに関する実習や目的や理念の異なる複数の博物館の見学を行う。複数の博物館を比較しながら見学し、その考察結果を授業時に発表してもらう。また、特別展の企画書・ポスターを制作				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

博物館実習は、学内での授業と、夏休みもしくは授業期間内に行なわれる数日間の館園実習とからなる。授業は、①資料の取り扱いに関する実習、②博物館の見学、③特別展の企画の3つを中心に行う。①は学芸員として身につけておくべき基本的な資料の取り扱いや業務について学習する。②は様々な目的と理念をもつ博物館の見学を行ない、比較考察をする。③は企画書作り、ポスター制作・発表までを行う。この授業は、実習博物館での実習の事前指導でもあり、受講態度には厳しさが求められる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

資料の取り扱いに関する知識

目標：

博物館の役割や業務について理解することができる。

汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

実習の準備から片づけまで、受講生で協力して行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講態度（発表含む）	60%	： 知識の習得に対する意欲や積極性を評価する。また、授業内で修得した知識に基づき資料を正しく取り扱うことができているかを評価する。ルーブリックに基づき評価し、点数化する。
授業内の課題	20%	： 授業内での発表や課題のレポートから、博物館の役割や業務についてどの程度理解できたかについて、評価する。
館園実習	10%	： 積極的な態度で実習に参加できたかを評価する。
試験（期末レポート）	10%	： 博物館の役割や業務への理解をふまえての、自身の実習についてふりかえり、レポート作成をする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は3単位の科目であるため、全体で135時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

実習であるため、出席厳守。見学日は、週末に行く場合もあるので、見学日時発表後にスケジュールを確認しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後の時間に質問に対応する。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	博物館実習の心構え 博物館実習に際しての心構えについて述べ、必要な事柄を整理する。また、各学生の実習館についてヒアリングし、リサーチを進める。	4時間
第2回	博物館資料の取り扱いー掛け軸・巻物ー 掛け軸・巻物の取り扱いについて実習を通して学ぶ。	4時間

第3回	拓本実習 拓本の採取方法について実習を行い、習得する。	拓本の採取方法について、配布プリントで復習する。	4時間
第4回	展示企画書作成実習 展示企画について学び、課題として提出する展示企画書の作成方法について説明する。	展示企画書を作成する。	4時間
第5回	博物館・美術館見学①ー文化財保護を考えるー 遺跡の発掘・保存を紹介する博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第6回	裏打ち実習 拓本実習で採取した拓本を補強するための裏打ち実習を行う。	裏打ちについて、授業内容を復習する。	4時間
第7回	博物館・美術館見学②ー地域に根ざした博物館ー 地域の歴史博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第8回	絵巻を読む（1）縁起絵巻 縁起絵巻に書かれた仮名文字を読む実習を行う。 中間ルーブリックの実施、学生ヘフィードバック	授業中に読んだ仮名文字の資料を復習する。	4時間
第9回	絵巻を読む（2）物語 物語絵巻に書かれた仮名文字を読む実習を行う。	授業中に読んだ仮名文字の資料を復習する。	4時間
第10回	10. 博物館・美術館見学③ー研究機関の博物館ー 研究を主要な役割として担う大学共同利用機関の博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第11回	博物館資料の取り扱いー箱・茶道具ー 茶道具と茶道具を入れた箱の扱い方について実習も交えて学ぶ。	配布した資料を中心に、茶道具と箱の扱い方について復習する。	4時間
第12回	博物館・美術館見学④ー総合博物館ー 人文科学系と自然科学系の両方の機能を有する博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第13回	博物館資料の取り扱いー和本ー 和本の構造と修復方法を理解するために、和本を作る実習を行う。	配布した資料を中心に、和本の構造と修復方法を復習する。	4時間
第14回	発表（展示企画・広報ポスター） 各自で企画した特別展の内容とその広報ポスターについて発表する。	ポスターを作成し、発表内容について準備を行う。	4時間
第15回	発表（見学のまとめ） 4回の博物館見学に関して、各自の設定したテーマに沿った発表をし、情報のまとめを行う。 最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	発表レジメを作成し、発表内容について準備を行う。	4時間